

映画『007 ロシアより愛をこめて』 (トルコ、イスタンブール)

会誌編集専門委員会

『ロシアより愛をこめて(From Russia with Love)』

イギリス・ロンドン生まれの冒険小説家イアン・フレミング(1908～1964年)の007小説の第5作。故ジョン・F・ケネディ大統領の愛読書の一つでもあったと言う。日本では東京オリンピックが開催された1964年に創元推理文庫より発売されている。

この原作をもとにした映画は、同年4月に封切られた。当初の邦題は『007 危機一発』であったが、1972年のリバイバル公開時には『007 ロシアより愛をこめて』に変更されている。007シリーズ映画の第2作で、監督はテレンス・ヤング、主演のジェームズ・ボンドはショーン・コネリー、ボンドガールのタチアナ・ロマノヴァ役はダニエラ・ピアンキ。歴代ボンドガールの中でも美人の誉れが高く、作品の人気も高い。ちなみに第1作は、前年公開の『007 ドクター・ノオ(Dr. No)』。



写真1 DVD『007 ロシアより愛をこめて』のパッケージ

クター・ノオ(Dr. No)』。

映画の前半はイスタンブールの街が舞台。ほぼ50年前の映像になるが、現在もそのまま辿ることが可能である。

映画のストーリー

犯罪組織スペクターはイギリスとソビエト(当時)の情報部を敵対させ、その間にソビエトの暗号解読機を奪い、宿敵ジェームズ・ボンドを葬り去るという一石三鳥の計画を立案した。スペクターの女性幹部となっているソビエト情報部のクレップ大佐は、トルコのソビエト大使館に勤務する情報員タチアナを騙し、ボンドと共に条件に暗号解読機を奪ってイギリスに亡命するように命令する。イギリス情報部トルコ支局長から、タチアナの亡命要請を受けたボンドは、罠の匂いを嗅ぎ取りつつトルコのイスタンブールに赴く。タチアナの協力のもと、奪った暗号解読機を持ち、オリエント急行でトルコを脱出する。しかし、列車にはスペクターの刺客が…。



写真2 イスタンブール・アタテュルク国際空港

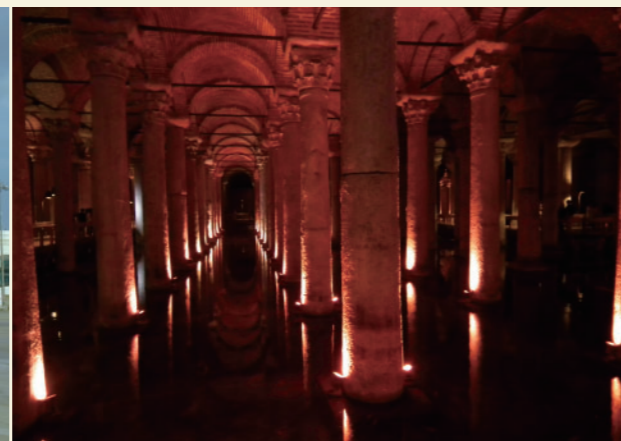


写真3 地下宮殿

舞台①イスタンブール国際空港

ボンドがパンアメリカン航空でイスタンブール国際空港に到着し、物語の本筋が始まる。

イスタンブール旧市街中心部から南南西約20kmに位置する空港。当時は所在地名のイエシルキョイ国際空港であったが、現在はトルコ共和国初代大統領ケマル・アタテュルク(1881～1938年)の名が付けられている。

舞台②地下宮殿

イギリス情報部トルコ支局からソビエト大使館に至る秘密の地下ルートで、ボンド達は貯水池をボートで渡る。

ビザンツ帝国時代の527～565年にかけて造られたヴァレンス水道橋から続いていた元地下貯水池。広さ70×140m、高さ8mの大空間で約8万m³の貯水が可能だった。天井を支える林立する円柱から地下宮殿と呼ばれている。かつてはボートに乗って見学したが、1980年代の大改修後は通路を歩くようになった。

舞台③ソビエト大使館

映画では、旧市街と思われる大通りに面した架空の場所に、タチアナが勤務するソビエト大使館がある。

実際のロシア総領事館は、新市街地のテュネル駅に近い、路面電車が通るイスティクラル通り東側にある。

舞台④アヤ・ソフィア

ボンドがタチアナからソビエト大使館の見取り図を受け取る際に、観光客の多いアヤ・ソフィアを利用する。

360年に最初の建物が建立され、幾度かの焼失やドーム崩壊を修復し、現在に至っている。ビザンツ建築の最高傑作と言われ、1453年以降はモスクとして改修され、現在は博物館。ギリシャ語ではハギア・ソフィアと言う。

舞台⑤観光船

ボンドがタチアナから暗号解読機の詳細情報を聞くために、人の多い観光船のデッキを利用する。

ガラタ橋からは、^{きんかく}金角湾を頻繁に行き交うフェリーや観光船が望める。

舞台⑥シルケジ駅

ボンドとタチアナがトルコを脱出するために乗るオリエント急行の発着駅。

1890年に完成した旧シルケジ駅舎やレストランは現在でも使用され、オリエント急行が発着したホームに隣接している。イスタンブールとパリを結んだオリエント急行は1977年5月に廃止された。

(文 塚本敏行)

<参考資料>

- 1) 『007 ロシアより愛をこめて』DVD 20世紀フォックス ホーム エンターテイメント ジャパン株式会社
- 2) 映画『007 ロシアより愛をこめて』パンフレット 1972年 松竹株式会社事業開発部編
- 3) 『007 ロシアから愛をこめて』イアン・フレミング 井上一夫訳 2008年 東京創元社
- 4) 『地球の歩き方 イスタンブールとトルコの大冒険』10～11『地球の歩き方編集室 2010年 ダイヤモンド社
- 5) 『まっふるマガジン トルコ イスタンブール』2008年 昭文社

<取材協力>

- 1) Osman Oral(ガイド)

<写真提供>

- 写真1、6、7 塚本敏行
写真2 村山千晶
写真3、5 市場嘉輝
写真4 惣慶裕幸



写真6 金角湾の観光船



写真7 シルケジ駅のオリエント急行発着ホーム



写真4 ロシア総領事館の正面ゲート



写真5 アヤ・ソフィア内部